

5.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

ここでは河川の自然度・健全度や河川管理との関わりが考えられるカヤネズミ、カジカガエルなどの確認状況を整理しました。なお、1～3巡目調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

【川らしいハビタット機能（哺乳類の確認状況）】

（両生類・爬虫類・哺乳類調査）

● カヤネズミを自然分布域の4河川で確認

高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣するカヤネズミは、高水敷の河川管理の影響を受ける可能性があります。そこで、カヤネズミの確認状況の変化についてとりまとめました。

今回とりまとめを行った11河川のうち、自然分布域内である中部地方の菊川、四国地方の肱川、渡川、九州地方の菊池川の4河川で確認されました。

また、調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認された河川数の割合からみると、1巡目調査から増加傾向にあります。

（資料掲載：5-9～5-10ページ、5-37～5-38ページ）

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (59河川)	2巡目調査 (97河川)	3巡目調査 (99河川)	4巡目調査 (39河川)
カヤネズミ	42河川 〔71.2〕	76河川 〔78.4〕	86河川 〔86.9〕	36河川 〔92.3〕

1～3巡目調査のデータは、調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

()内は調査実施河川のうち分析対象とした河川数を示す。

[]内は確認河川数の分析対象とした河川数に対する割合(%)を示す。

分析対象河川はカヤネズミの自然分布域内の調査実施河川を対象とした。

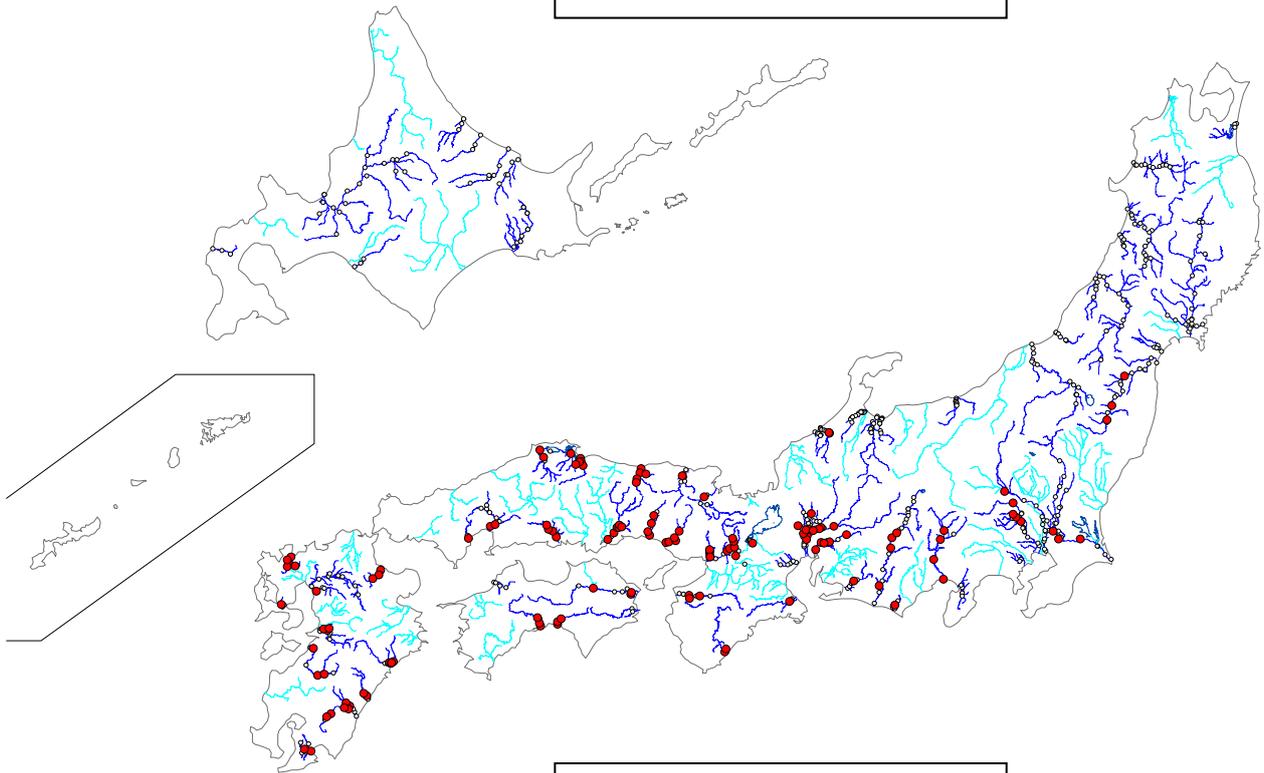
カヤネズミは本州の太平洋側では宮城県南部以南、日本海側では新潟県以南、四国、九州、隠岐、淡路島、豊島、因島、対馬、天草諸島下島に主に分布します。高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣する本種は、高水敷の河川管理の影響を受ける可能性があります。

今回の調査では、カヤネズミは自然分布域である5河川のうち、中部地方の菊川、四国地方の肱川、渡川、九州地方の菊池川の4河川で確認されました。

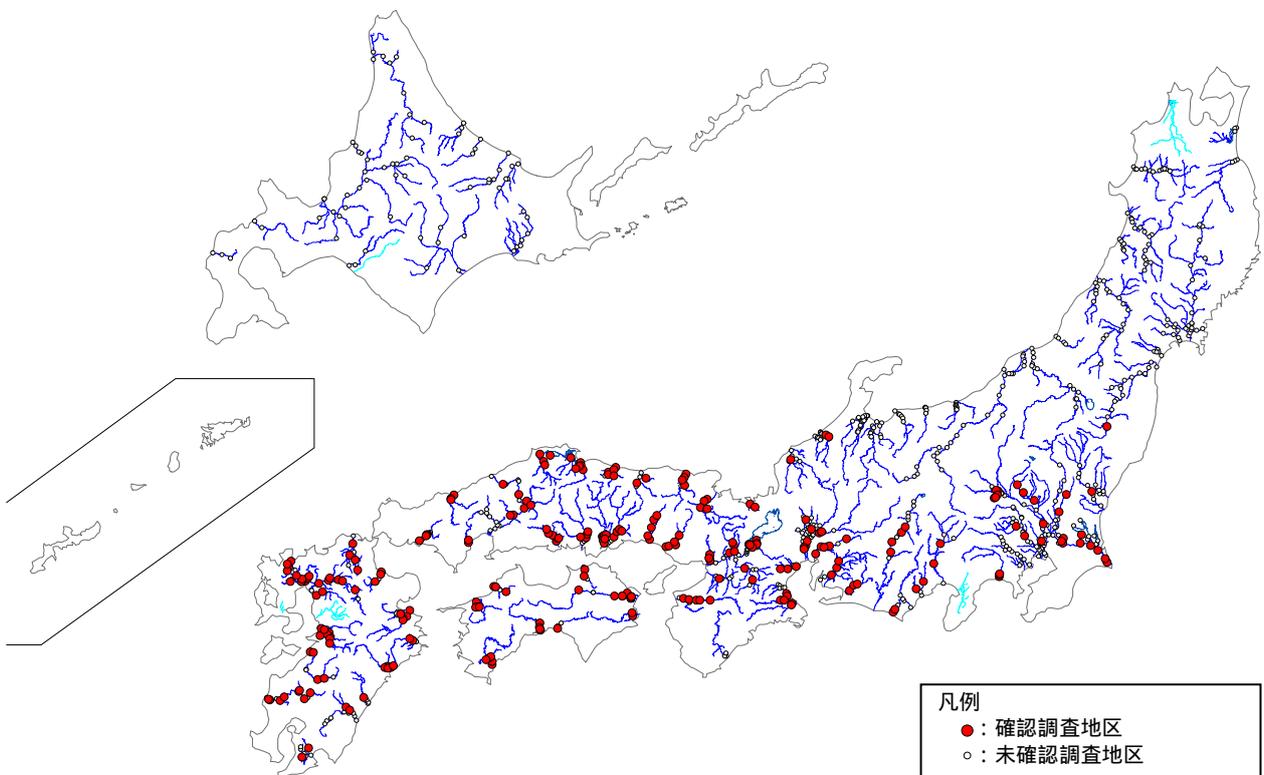
また、調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認された河川数の割合からみると、1巡目調査から増加傾向にあります。

カヤネズミの生息は、河川の自然度・健全度や、河川管理による河川環境の変化に影響を受けます。今回は確認河川数の減少はみられませんでした。今後も引き続きモニタリングを続け、本種の生息状況を把握していくことが必要であると考えられます。

1 巡目調査（平成 3～7 年度）

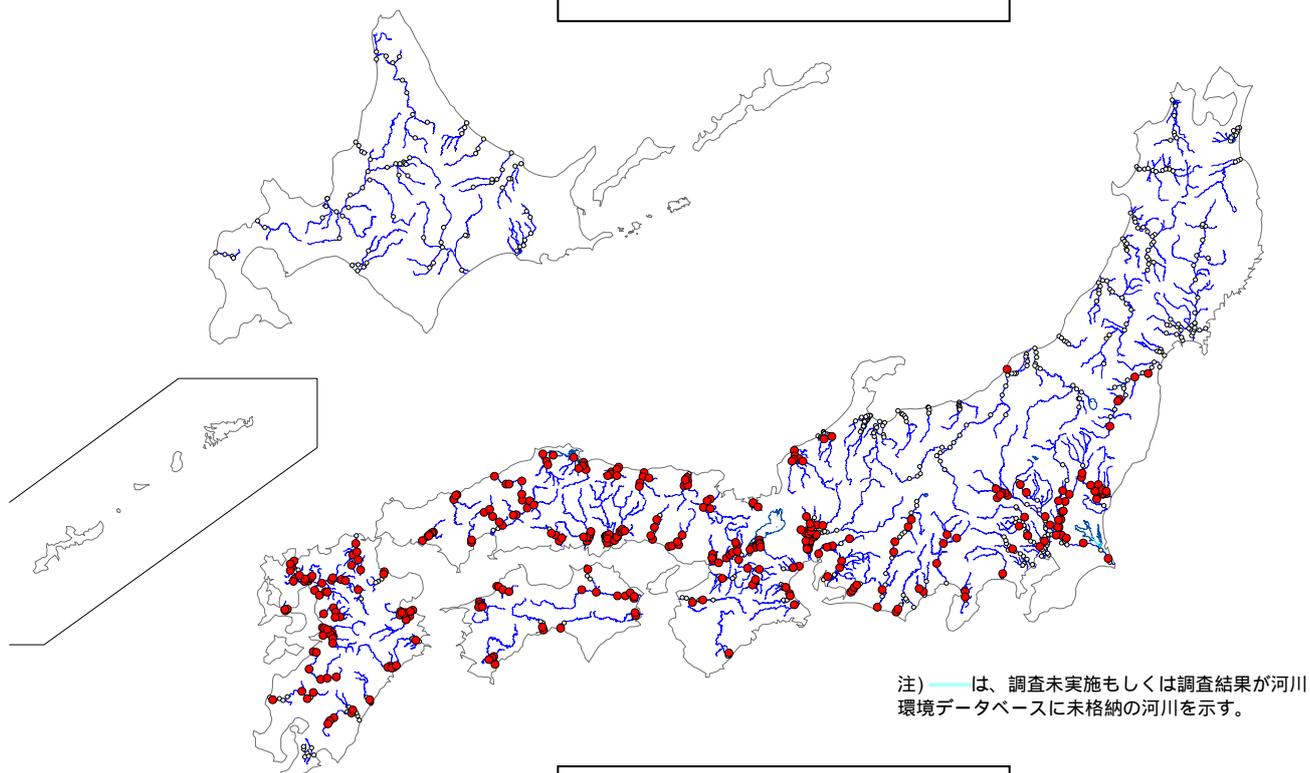


2 巡目調査（平成 8～12 年度）

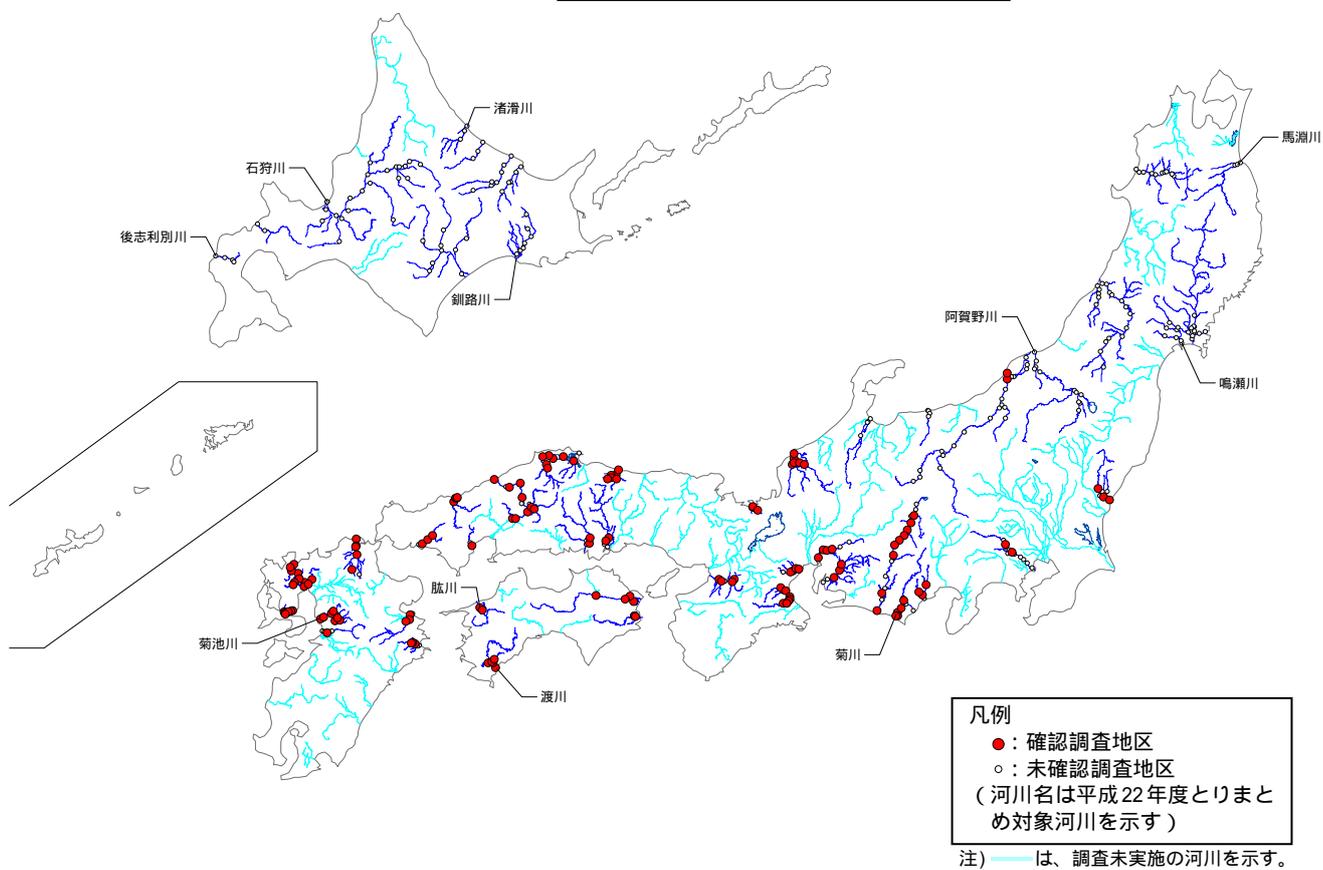


カヤネズミの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～22 年度）



カヤネズミの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

- **カジカガエルを自然分布域の3河川で確認**

カジカガエルは本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流にすみ、流れの石の下に卵を産みます。このため、河川管理による河川環境の変化による影響を受ける可能性が考えられます。

今回とりまとめを行った11河川のうち、自然分布域内である北陸地方の阿賀野川、四国地方の肱川、渡川の3河川で確認されました。

また、調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認された河川数の割合からみると、1巡目調査から増加傾向にあります。

（資料掲載：5-12～5-13ページ、5-37～5-38ページ）

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (66河川)	2巡目調査 (106河川)	3巡目調査 (109河川)	4巡目調査 (45河川)
カジカガエル	25河川 〔37.9〕	40河川 〔37.7〕	50河川 〔45.9〕	25河川 〔55.6〕

1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

（ ）内は調査実施河川のうち分析対象とした河川数を示す。

〔 〕内は確認河川数の分析対象とした河川数に対する割合（％）を示す。

分析対象河川はカジカガエルの自然分布域内の河川を対象とした。

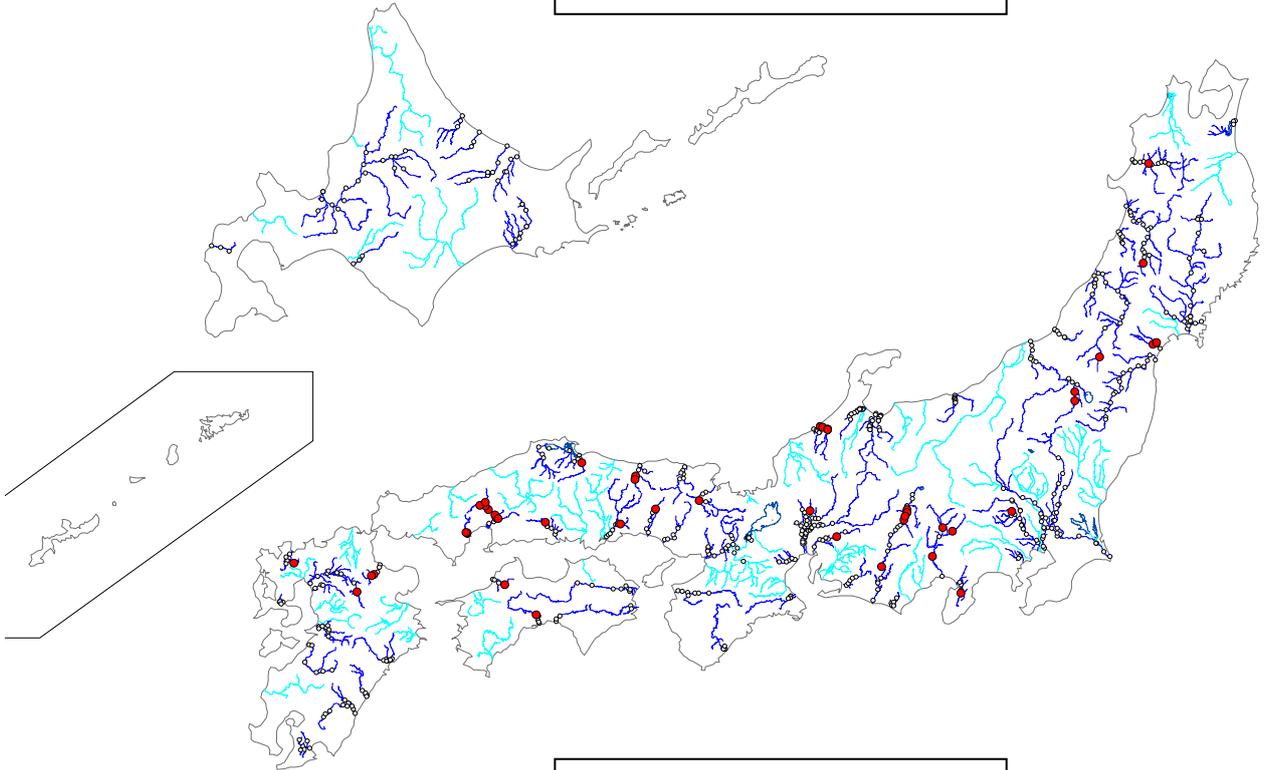
カジカガエルは本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流と周辺の樹林にすみ、溪流中の石の下に卵を産みます。このため、河川管理による河川環境の変化による影響を受ける可能性が考えられます。

今回の調査では、カジカガエルは自然分布域である7河川のうち、北陸地方の阿賀野川、四国地方の肱川、渡川の3河川で確認されました。

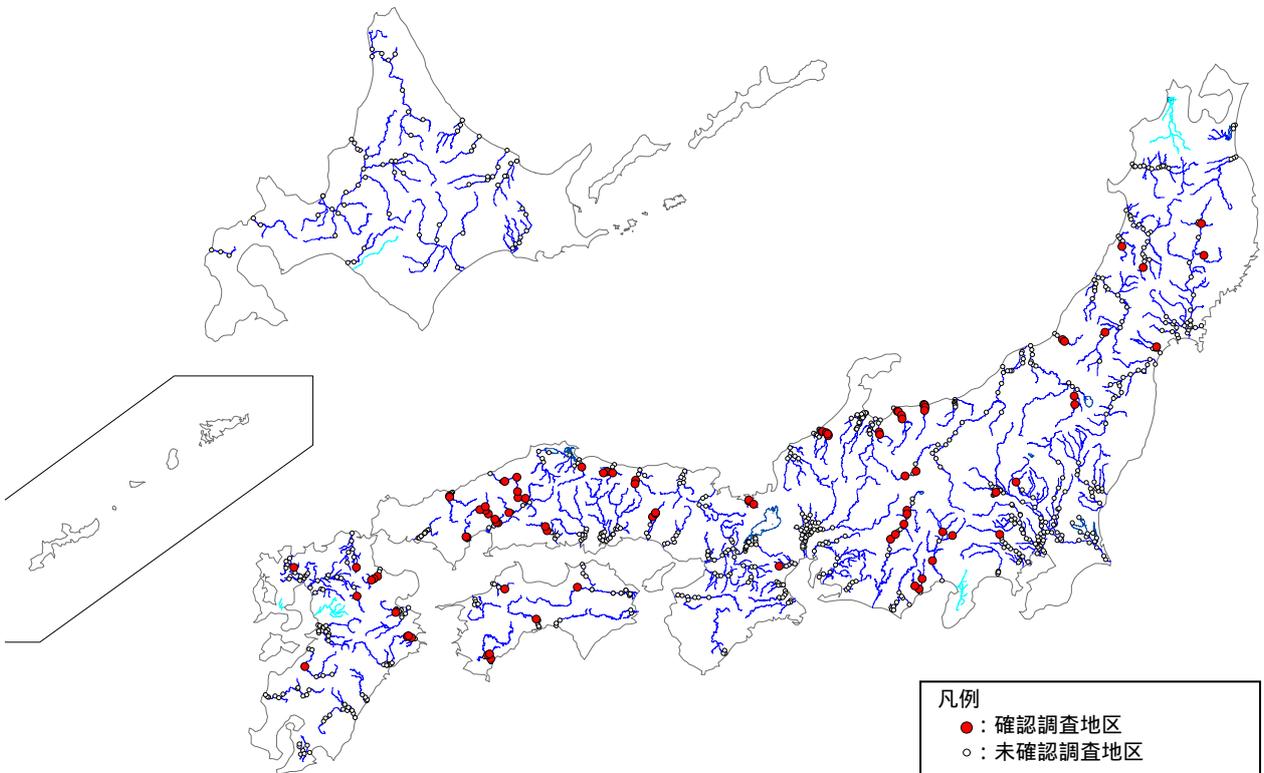
また、調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認された河川数の割合からみると、1巡目調査から増加傾向にあります。

カジカガエルは、河川管理による河川環境の変化により生息状況に変化が生じる可能性があります。今回は確認河川数の減少はみられませんでした。今後も引き続きモニタリングを続け、本種の生息状況を把握していくことが必要であると考えられます。

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）

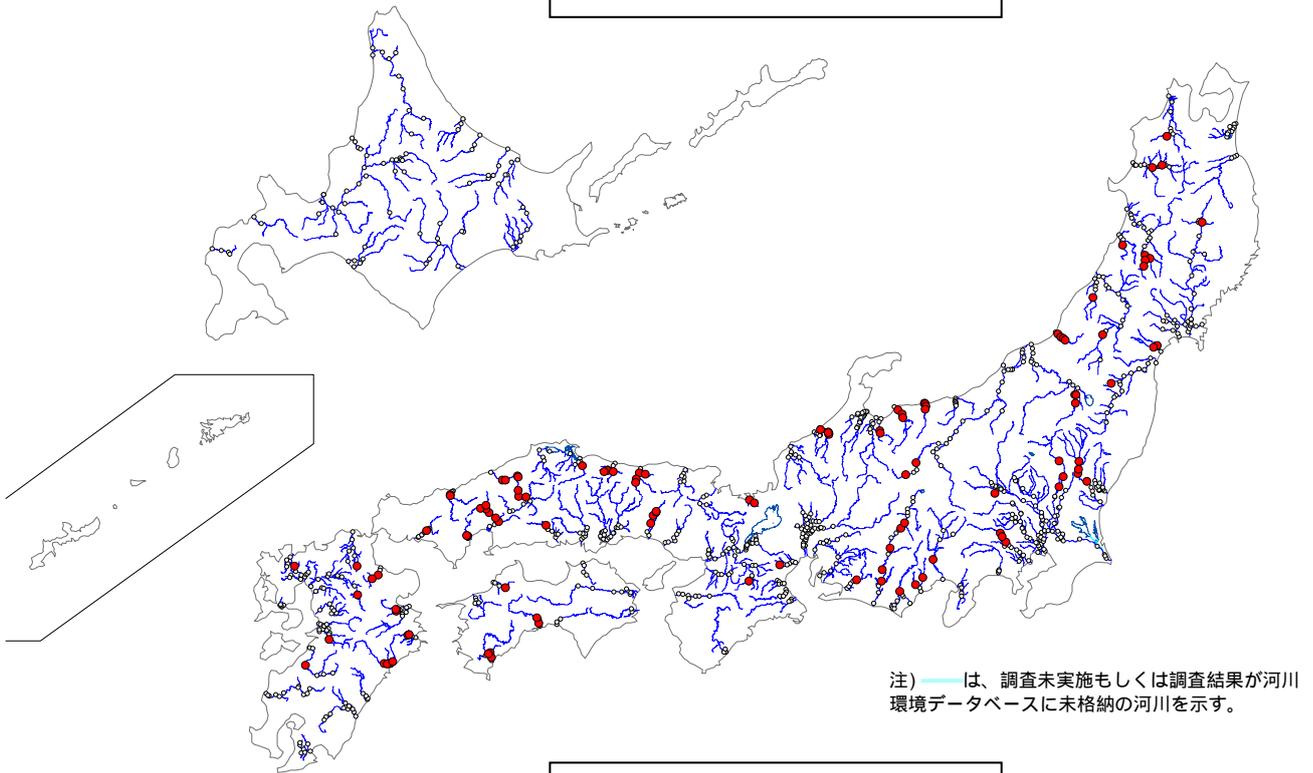


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

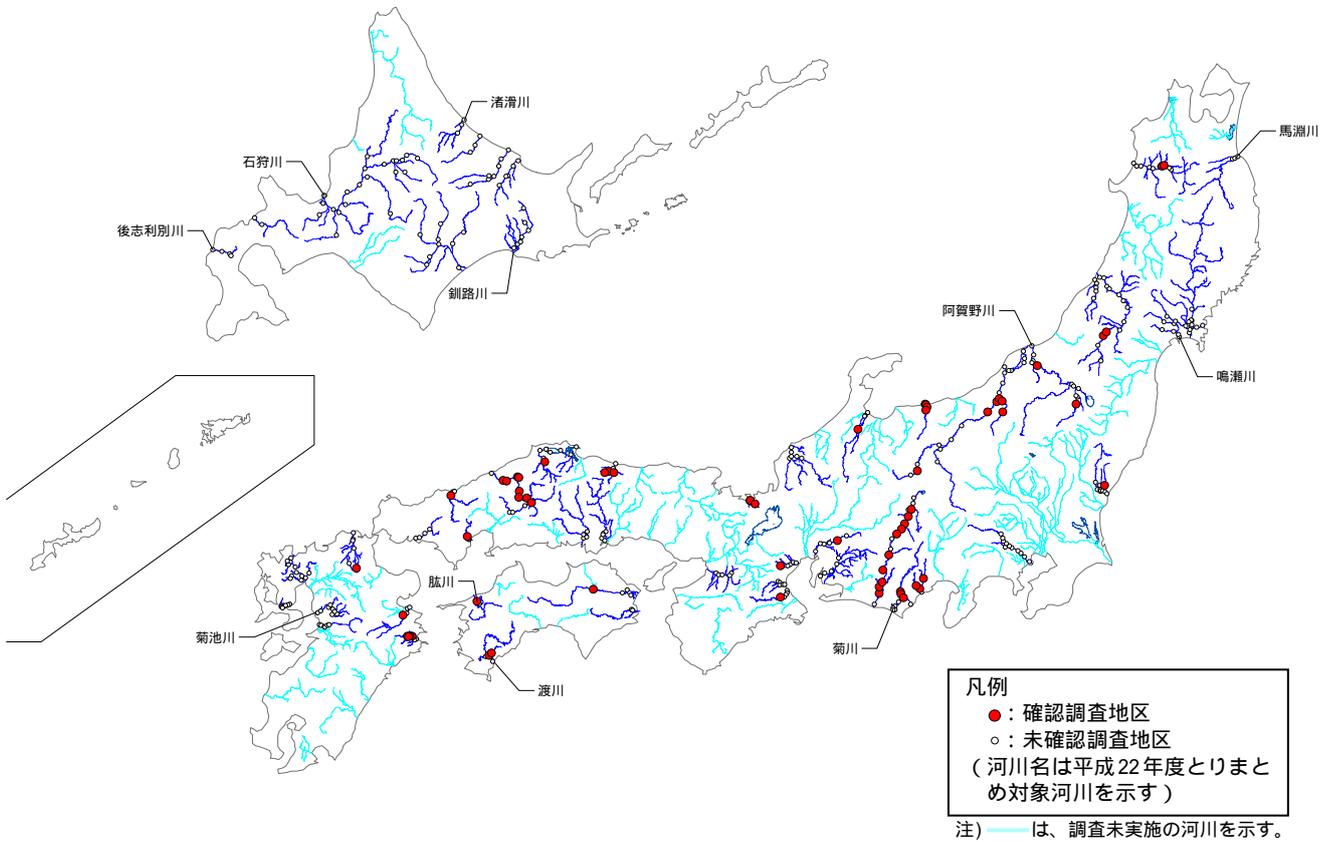
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

カジカガエルの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～22 年度）



カジカガエルの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）